
一分進んだ時計

緋村 螢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一分進んだ時計

【Zコード】

Z7044A

【作者名】

緋村 螢

【あらすじ】

非恋の物語です。切なくて、でも・・・離れたくない。たった1分だけ。1分の夢を見よう。

(前書き)

非恋です。でも何かを見つけてください。
自分にとつての宝物を。

ある日、ふと時計を見た。

その時間は・・・

「一分進んだ時計」

今日は11月21日。

中間試験の真っ最中。

少し早めに終わつた。

時間は10：40。

だから、校庭を見下ろしていた。

すると・・・

あれ？？

そこには奈良先輩が居た。

何で奈良先輩がいるんだろう？今は試験中の筈なんだけど・・・

奈良先輩は猫を頭に乗せて微笑んでいた。

何で猫？でも、楽しそうだな。

奈良先輩は高2。

私は中1。

同じ部活に入らなかつたら、同じ学校に入らなかつたら、きっと出
会えなかつた。

私は奈良先輩のあの笑顔が大好きだ。

奈良先輩は私が部活入りたての頃、あの笑顔で笑ってくれた。

でも、もう引退かもしれない。

それは、絶対に嫌だ。

ハツ・・・

ふと涙が零れ落ちそうになる。

あれ？ 試験は？

もう結構時間が経った気がした。

・・・ん？！

時間は経っていたけど既止まっている。

これは何なのだろうか。

・・・私に時間をくれたのかもしない。

もしかしたら始めから時間が止まっていたのかもしない。

私はどうしたらいいのだろう・・・・・

とりあえず何処かへ。

そして、やっぱり私の足は校庭へ。

勿論、奈良先輩に会いたかったのだろう。

「ふう・・・

「奈良先輩！－！」

「・・・・・つー？」「

奈良先輩の時間は止まつてなかつた。

「なつ！大村？！」

「な、何をしているんですか？」

「え？あ、ああ。木に猫がいたから助けてた。」

「そりなんですか。」

「お前は何してるの？中等部は試験中だろ？」

「え？あつ・・・窓から先輩が見えたもので・・・」

「へえ。俺追つてきたんだ。」

「／＼／そり・・・かもしだせんね。」

「良い後輩持つたなー俺。」

「・・・え?」

「俺さ今凄い泣きたい気分でさ、誰かに泣きつけたかった。そしたら大村が来た。」

何で泣きたいうなんだろ?」

彩乃にはこの答えはまだ分からない。

「な、何で泣きたかったんですか?」

「俺、もひそり引退だけど誰か悲しんでくれるかなあつて思つたら。」

実際は違う。

「や、そりゃあ悲しみますよー。」

「だつて皆俺の事怖がつてゐじ?」

「少なくとも私は、悲しみます。やつやかも・・・//」

「 せつ きも？」

「 考えてたら泣きそうになりました。」

「 ・・・つー」

「 私は奈良先輩が大好きです。」

奈良先輩は泣いていた。

「 なつ 奈良先輩？！」

「いや、そこまで想つてくれてたんだって思つてさ。」

「 ／＼＼＼」

「俺も好きだよ。」

私も泣いてしまった。凄い幸せだった。

でも、

その幸せは

しまつた。

何処かへ行つて

もうお別れだ。

奈良先輩は何処へ行くのですか？

私を置いていかないで。

ごめん。俺もずっと一緒にいたかった。

瞬きをしたら、そこは机の上。

不意に時計を見た、そしたら・・・10:41

私が校庭を見てから1分しか経っていない。

次の日、奈良先輩は死んだという連絡があった。

木に登つて降りれなくなつた猫を助けて、トラックがその木にぶつかつて・・・

あれは奈良先輩が見せてくれた夢だつたのかもしれない。

私の時計は普通の時間よりも1分進んでいた。

ずっと見ていてください。

私は絶対に忘れません。

この1分進んだ時計は・・・

この一分は奈良先輩がくれたものだから。

大好きだから、悲しい。

大好きだから離れたくない。

どうでも良い人なら、泣いたりはしない。

奈良先輩、貴方だから泣いてしまった。

だから、奈良先輩も私のことを覚えていてください。

(後書き)

非恋で下さいません。でもコレを読んで貴方の何かが変われば・・・。
たつた1分の時間でも大切にしてもらいたい。そう思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7044a/>

一分進んだ時計

2010年10月17日06時48分発行